

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：18001

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870573

研究課題名(和文) ポジティブ心理と健康の社会的決定要因：社会関係資本と健康のメカニズム検討

研究課題名(英文) Social Determinants of Health and positive psychology: examining mechanisms of social capital and health

研究代表者

白井 ころこ (Kokoro, Shirai)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：80530211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、健康の社会的決定要因のメカニズム検討の視点から、地域・個人の社会関係資本(以下SC)とポジティブ心理資源を中心に健康との関係を検討した。沖縄において、オキシトシンやストレス指標を含む採血調査、栄養、生活習慣に関する質問票調査を、2010年からのコホート調査として継続実施した。全国データとの結合、分析の結果、SOC・利他的行動・笑い・幸福感等のポジティブ心理要因と、認知・身体機能の維持、循環器疾患等生活習慣病との関連が示された。加えて、SCと検診受診、認知症発症等、複数の健康アウトカムとの関係性が示され、地域におけるポジティブ心理要因とSCの健康への保護的機能が示唆されたと考える。

研究成果の概要(英文)：This study attempted to examine the mechanisms of social determinants of health in Okinawa and Japan. As a result of 3-year project, we examined social capital (hereafter SC), positive psychological conditions and its association with health related outcomes. In this study, we conducted cohort study among participants living in the community in Okinawa. Among selected participants of this study, we further collected nutrition data and biomarker data evaluating stress levels and resilience factors.

Study results suggested that protective effect of SC as well as positive psychological conditions on health. For example, levels of SC were associated with reduced risks of dementia onset based on a 10 year follow-up study. Also, altruistic behavior and Sense of Coherence were associated with reduced risks of all-cause mortality, dementia and CVD, respectively. These results were presented during study period in academic journals, published books and international conferences.

研究分野：社会疫学・公衆衛生学

キーワード：健康の社会的決定要因 ソーシャル・キャピタル ポジティブ心理要因 沖縄 高齢者

1. 研究開始当初の背景

疾病発症や健康・寿命を決定する社会的な要因、すなわち Social Determinants of Health (健康の社会的決定要因) を重視する、社会疫学的なアプローチの重要性が、2006年にWHOのレポート等からも報告されている。Evans RG(1994)らが初期に提唱した「社会階層性理論」(Social Gradient Theory)では、集団の健康度や平均寿命が、社会の経済水準により決定され、社会経済的に恵まれた集団ほど健康水準が高くなると考える。しかし、沖縄は所得水準や失業率等から考えても、国内では最も厳しい社会経済的状况下にあり、この説に矛盾する(Cockerham WC et al, 2000, 2001)。また一方で、絶対的な貧困ではなく、相対的な貧困率の高さの方が、むしろ健康には悪影響を及ぼし、地域内に存在する経済格差が、健康格差につながる事が、広く報告されている (Kawachi I et al, 2002, Wilkinson RG et al, 2006)。Lochner Kら(2001)は、個人所得を調整した上でも、地域の Gini 係数の差が個人の総死亡リスク上昇に寄与することを示した。これは、日本より社会的格差がある米国の結果であるが、日本でも同様に、社会経済的に Disadvantage がある“負け組”に属する者だけでなく、経済的に豊かな“勝ち組”に属する者へも、格差社会が健康に負の影響を与える可能性を示す論拠の一つになると考えられる。沖縄は、Gini 係数で示す地域内格差が国内でも安定的に高い地域で有り、絶対的・相対的な格差が二重の構造で存在する地域であると考えられる。

沖縄県における絶対的・相対的な2重の貧困状態を生む構造的な経済格差は、その後の寿命の格差、健康長寿の毀損に繋がった可能性が考えられるが、一方で沖縄県が健康長寿日本一であったという状況は、1972年の本土復帰以降2013年度発表までは継続されていた。県別の社会経済的指標の厳しさも、長寿の島沖縄の別の特徴的な側面であった。日本一の健康長寿を達成しながら、社会経済的には県別の所得や就業率では日本でも最も厳しい状況にある沖縄県は、社会と健康の関係を検討する上で、非常に重要な地域であると考えられる。本研究では、沖縄県においては、社会経済的な格差や、相対的・絶対的貧困状態が、直接的に健康の格差に直結しない、何かしらの資源や要因が存在したと仮説し、健康への影響のメカニズムを検討することを目的とした。例えば、その要因の一つとして地域のソーシャル・キャピタルや個人のポジティブ心理資源の影響が考えられる。

ソーシャル・キャピタル(以下SC)と健康の関係については、死亡や生活習慣病、歯科疾患等複数の研究成果が報告されている。本邦でも研究蓄積が進みつつあるが、沖縄地域においては、まだ検討が限られており、社会疫学的検討からも特徴的な傾向を持つ沖縄における関係性と、全国におけるSCと健康影響の関係性の両方を検討する必要があると考えられる。

本研究では、地域・親族・友人間のつながりの強さや、農作業や家の普請時のコミュニティにおける「結」等を含む、伝統的な助け合いの絆の強さが指摘される沖縄において、コホート調査を行い、全国データと結合した上で、日本・沖縄のソ

ーシャル・キャピタルならびにポジティブ心理資源と健康の関係について、検討を試みる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会疫学的観点から、社会経済的背景要因等を考慮した上で、地域・個人のソーシャル・キャピタル、ならびに個人のポジティブ心理資源と健康・健康行動との関係についてそれぞれ検討することである。

ソーシャル・キャピタルと健康の関係を明らかにし、個人・地域のソーシャル・キャピタルならびに、個人の持つポジティブ心理資源と健康との関係性について検討することは、日本における健康の社会的決定要因のメカニズムの一旦を解明する方策としても重要であると考えられる。

3. 研究の方法

本研究では、沖縄県の2市町村においてコホート調査を実施し、日本老年学的評価研究(JAGES Study)による全国データと結合して、分析を進めた。

沖縄地域では、質問票による社会経済的要因・生活習慣・地域参加や、その他の社会心理的要因についての調査を実施した。加えて、IL-6、コルチゾール、オキシトシン・ホルモン等のバイオマーカー測定を採血調査により実施し、自律神経機能、塩分味覚試験等についても健診会場において調査対象者の一部に実施した。加えて、食行動の調査について、BDHQ(佐々木式簡易型自記式食事歴法質問票)を用いて、栄養調査を実施した。

沖縄県における調査対象2地域の人口構成は以下の通りである(H26年度市町村統計資料)人口(平成27年2月5日現在)
 N村 総数 9,640人(4197世帯)
 男性: 4,879人、女性: 4,761人
 N市 総数 42,338人(15,812世帯)
 男性: 21,346人、女性: 20,992人

本調査では、N村・N市においてそれぞれ65歳以上自立高齢者を対象として、調査員訪問による留置法を採用して調査を行った。本研究においては、N村2500名、N市7000名を対象に調査実施した。

認知症発症・死亡については介護保険データによる評価を使用し、特定健診データと合わせて調査票データ等との結合作業を行った。加えて、協力戴ける一部対象者については、追加の採血調査、自律神経機能調査、BDHQ調査等を、本人の同意と承認を得て実施し、個人特定が出来ない方法にて、結合作業を実施した。その他、IADL自立等の評価については、老健式活動能力指標(古谷野ら, 1987)を用いて、手段的自立、知的能動性、社会的役割の3下位尺度を含めて、13項目の尺度を用いて評価した。

倫理面への配慮として、本調査は文書による説明と同意書の記入に基づき個人情報の保護に留意して実施された研究であり、当該研究課題は日本福祉大学における倫理審査と共に琉球大学における倫理審査によって承認された研究である。また本研究の実施に当たっては、日本福祉大学、琉球大学医学部、琉球大学法文学部が、それぞれN村、N市の市町村担当部局との協議の上、研究協力協定を関係大学と市町村の間で4者協定としてそれぞれ締結しており、本研究は協定に基づいて実施されている。

4. 研究成果

本研究の3年間の成果として、SCと健康の関係についての5冊の書籍刊行と、原著論文、学会報告等において、主に以下の結果について報告した。分析には上記沖縄のデータならびに全国調査データ（JAGES：日本老年学的評価研究）、また多目的コホート研究 JACC Study 等の縦断データを用いて検討を行った。

・ソーシャル・キャピタルと認知症発症の関係（SCの3指標を含むSCスコアによる10年間・3年間の追跡調査の結果、SCスコアの高い者で、認知症発症のリスクが低いことが示された。結果には男女差があり特に女性で結果は顕著であった）

・ソーシャル・キャピタルと検診受診行動の関係（組織参加によるネットワーク要因・信頼感・互酬性の規範それぞれについて、検診受診行動との関係が示唆された）

・利他的行動と認知症発症の関係（利他的行動として、他者へのサポート提供が、認知症発症のリスク減少と関連する事が示された。結果には男女差がみられた）

・沖縄社会における伝統的なソーシャル・キャピタルの一形態と考えられる「模合」参加と高齢者の健康度の関係（模合参加と高齢者の健康状態の維持について、予防的な関係が支持された。）

・沖縄におけるソーシャル・キャピタルの類型と健康の関係（SCの類型として結束型・橋渡し型のSCと健康の関係を検討し、男性では似た者同士をつなぐ結束型SC、女性では異なる背景を持つ者を繋ぐ橋渡し型SCが高齢期の機能維持にプロテクティブな影響を与えていることが示唆された）

・SOC（首尾一貫感覚・ストレス対処能力）と認知症（10年間の縦断追跡の結果、SOCの高い者で認知症発症のリスクが低い傾向が認められた）

・笑いの主観的健康感（笑いの頻度が少ない者で、主観的健康感が低い傾向がみられた）

・笑いと循環器疾患の有病（笑いの頻度が低いもので循環器疾患の有病リスクが高いことが示された）

・笑いとのIADL機能（笑いの頻度の低い者でIADL機能低下のリスクが高い傾向が示された）

・笑いとう糖尿病有病（笑いの頻度の少ない者で、糖尿病有病のリスクが高い傾向が示された）

・幸福感と死亡（総合的指標としての幸福感が高い者で死亡リスクが低いことが3年間ならびに10年間の追跡調査の結果示された。結果には男女差があり、特に男性で顕著に認められた）

・頼りにされている意識と死亡（周囲から頼りにされていると本人が考えている者において、死亡リスクが低いことが示された。結果は男性でのみ有意であり、結果は女性では支持されなかった）

・社会経済状況と認知症（自記式の所得による社会経済的指標、教育歴による社会経済的指標、保険料区分データによる課税レベルから検討した社会経済的指標と認知症発症の関係について、検討した。自記式の所得は関係性が認められなかったが、課税レベルによる社会経済的状態との関係が支持された）

・失業と死亡（失業者において、その後の死亡リスクが高い傾向が1988-1999年をベースラインとした、平均14.4年間の追跡調査の結果として明らかになった）

・CKDと社会環境的要因と認知的要因の検討（検診データを用いて検討した結果、公園までの距離や生鮮食料品までの距離が近いと言う物理的環境よりも、安全性や他者との関係性などの認知的・心理的環境要因が、CKD有病と関連する傾向が示された）

上記の通り3年間の成果として、複数の指標を用いて、ソーシャル・キャピタル、ポジティブ心理要因、ならびにその他の社会的決定要因が日本全国・沖縄地域の中高齢者の健康状態（認知症・死亡・検診受診・IADL・循環器疾患等の生活習慣病・主観健康状態等）について、それぞれ有意な関係性が認められることが確認された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計9件)

1. Hayashi K, Kawachi I, Ohira T, Shirai K, Kondo K, Kondo N, “Laughter is the best medicine? Cross sectional study of cardiovascular disease among older Japanese adults”, J of Epidemiology. 2016 in press, (査読論文)

2. Hayashi K, Kawachi I, Ohira T, Shirai K, Kondo K, Kondo N, “Laughter and Subjective Health Among Community-Dwelling Older People in Japan: Cross-Sectional Analysis of the Japan Gerontological Evaluation Study”, J of Nervous and Mental Diseases. 2015 Dec;203(12):934-942. (査読論文)

3. Kanamori S, Kai Y, Aida J, Kondo K, Kawachi I, Hirai H, Shirai K, Ishikawa Y, Suzuki K, the JAGES group, "Social participation and the prevention of functional disability in older Japanese: the AGES Cohort Study", PLoS One. 2014 12;9(6):e99638. (査読論文)

4. Fujiwara T, Kondo K, Shirai K, Suzuki K, Kawachi I. "Associations of Childhood Socioeconomic Status and Adulthood Height With Functional Limitations Among Japanese Older People: Results From the JAGES 2010 Project". J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2014;69(7):852-9. (査読論文)

5. Oksanen T, Kawachi I, Subramanian SV, Kim D, Shirai K, Kouvonen A, Pentti J, Salo P, Virtanen M, Vahtera J, Kivimäki M. "Do obesity and sleep problems cluster in the workplace? A multivariate, multilevel study" Scand J Work Environ Health. 2013 1;39(3):276-83(査読論文)

6. 芦田 登代, 近藤 克則, 平井 寛, 白井 ころ, 近藤 尚己, 三澤 仁平, 尾島 俊之: 高齢者の健診受診と「将来の楽しみ」、うつ、社会経済的要因との関連 AGES プロジェクト、厚生省の指標 59 (12): 12-21, 2012 (査読論文)

7. Todoriki H, Shirai K. Well-being transition and social capital in post-war Okinawa, International review of Ryukyuan and Okinawan Studies, 2012;1:9-28.

8. Hanibuchi T, Kondo K, Nakaya T, Shirai K, Hirai H, Kawachi I. "Does walkable mean sociable? Neighborhood determinants of social capital among older adults in Japan". Health Place. 2012;18(2):229-39. (査読論文)

9. Nishi A, Kawachi I, Shirai K, Hirai H, Jeong S, Kondo K. Sex/gender and socioeconomic differences in the predictive ability of self-rated health for mortality. PLoS One. 2012;7(1):e30179. Epub 2012 Jan 19(査読論文)

〔学会発表〕(計 35 件)

1. 白井ころ「健康長寿をめざして: 沖縄の課題と取り組み」第 25 回日本健康教育学会学術総会, 2016.6.12-13, (沖縄科学技術大学院大学(OIST)沖縄(シンポジウム))

2. 白井ころ・藤原武男・井上陽介・磯博康・雨宮愛理・矢澤亜季・花里真道・鈴木規道・近藤尚己・近藤克則「地域の物理的・心理的環境要因と CKD リスクの関連についての検討: JAGES Study 第 26 回日本疫学会総会. Jan.21-23, 2016 (poster presentation) 米子コンベンションセンター Big Ship、鳥取

3. Shirai K, Iso H, Kawachi I, Aida J, Fujiwara T,

Saito T, Ojima T, Kondo K. "Does Social Capital Reduce the Risks of Dementia among Older Japanese : JAGES project", 68th Gerontological society of America (GSA) Nov 20 2015, Walt Disney World Swan and Dolphin, Orland, USA.

4. 白井ころ, 大平哲也, 磯博康, 広崎真弓, 永井雅人, 今井友里加, 林慧, 近藤尚己, 近藤克則, 高齢者の笑いと糖尿病有病の関係についての検討: JAGES Study, 第 74 回日本公衆衛生学会総会、2015.11.4, 長崎ブリックホール、長崎

5. 佐藤遊洋, 相田潤, 白井ころ, 坪谷透, 小山史穂子, 松山祐輔, 小坂健, 近藤克則, 普遍化信頼および特定化信頼と主観的健康感の関連の研究: JAGES プロジェクト, 第 74 回日本公衆衛生学会総会、2015.11.5, 長崎ブリックホール、長崎

6. 陣内祐成, 丸山皆子, 木山昌彦, 佐藤真一, 山岸良匡, 谷川武, 井上高博, 嶽崎俊郎, 白井ころ, 磯博康, 離島農村地域の健診における使用メディア媒体数と受診率向上との関連, 第 74 回日本公衆衛生学会総会、2015.11.4, 長崎ブリックホール、長崎

7. 坂庭嶺人, 藤原武男, 佐々木由理, 白井ころ, 近藤尚己, 北村明彦, 磯博康, 近藤克則, 小児期の貧困経験が高齢期の認知症発症に与える影響: JAGES コホート研究, 第 74 回日本公衆衛生学会総会、2015.11.6, 長崎ブリックホール、長崎

8. 垣本啓介・白井ころ 「沖縄県高齢者における受診抑制関連要因の検討-医師・患者関係の観点から-」第 47 回沖縄県公衆衛生学会 2015,10.30 自治会館、那覇

9. 小浜敬子・安仁屋文香・上原美郷・神谷義人・大屋祐輔・西平淳子・白井ころ・崎間敦・高倉実・等々力英美・奥村耕一郎・武村克哉「沖縄県在住の成人における主観的健康感と関連要因の検討: ゆい健康プロジェクトベースライン調査報告」第 47 回沖縄県公衆衛生学会 2015,10.30 自治会館、那覇

10. 神谷義人・安仁屋文香・小浜敬子・上原美郷・西平淳子・大屋祐輔・奥村耕一郎・高倉実・金城昇・崎間敦・白井ころ・等々力英美・武村克哉「沖縄県在住の成人における推奨身体活動と Body Mass Index の関連: ゆい健康プロジェクトベースライン調査報告」第 47 回沖縄県公衆衛生学会 2015,10.30 自治会館、那覇

11. 安仁屋文香・小浜敬子・上原美郷・神谷義人・西平淳子・大屋祐輔・崎間敦・等々力英美・白井ころ・奥村耕一郎・高倉実・金城昇・武村克哉「沖縄県在住の成人における

年齢別エネルギー産生栄養素量の比較：ゆい健康プロジェクトベースライン調査報告」第47回沖縄県公衆衛生学会 2015,10.30 自治会館、那覇

12. 上原美郷・安仁屋文香・小浜敬子・神谷義人・西平淳子・大屋祐輔・崎間敦・高倉実・白井こころ・等々力英美・武村克哉・奥村耕一郎・「沖縄県在住の成人における食べる速さとBody Mass Indexの関連について：ゆい健康プロジェクトベースライン調査報告」第47回沖縄県公衆衛生学会 2015,10.30 自治会館、那覇

13. 白井こころ・大平哲也・磯博康・林慧・近藤尚己・近藤克則・永井雅人・今井友里加・Ichiro Kawachi. “高齢期における「笑い」と日常生活機能との関係：JAGES Project 2013.” 日本老年社会科学会第57回大会 2015年6月13日、パシフィコ横浜, 横浜 (Poster Presentation)

14. Shirai K. “Is Social Capital associated with reduce risks of onset of dementia among community dwelling older Japanese: the JAGES Study project”. 7th International Symposium for Social Capital. Seoul and Jeju, June 2, 2015, Soul National University, Korea (Oral Presentation)

15. Shirai K. “Sense of coherence (SOC), social capital and its association with health a case of JAGES Iwanuma Study: Exploratory analysis on resilience factor for protecting mortality after disaster experience”. 7th International Symposium for Social Capital. Seoul and Jeju, June 2, 2015, Soul National University, Korea (Oral Presentation)

16. Shirai K. “Social connectedness, Social Capital and Health in Okinawa(沖縄における地域の絆・人の絆と健康：JAGES コホート研究からの知見)”. World Health Summit Regional Meeting Asia KYOTO 2015. Kyoto, Japan, April 14, 2015. (招待講演シンポ) 国立京都国際会館、京都

17. 白井こころ、磯博康、藤原武男、相田潤、平井寛、尾島俊之、近藤克則 Social capital and participation in health screening in the community : the JAGES project (ソーシャル・キャピタルと健診受診行動の検討：JAGES project)第25回日本疫学会総会 2015.1.23 ウィンク愛知、名古屋

18. 中出美代、山本龍生、相田潤、白井こころ、近藤克則、平井寛、近藤尚己、JAGES Group, 「高齢者のBMIと認知症を伴う要介護認定との関連：AGESプロジェクトコホートデータによる分析」、第25回日本疫学会総会 2015.1.23 ウィンク愛知、名古屋

19. 白井こころ 「沖縄における健康長寿とSCの検討」沖縄から考える健康心理学(ソーシャル・キャピタルと地域のちから)日本健康心理学会 第27回大会プログラム準備委員会シンポジウム、健康心理学会 2014年11月 OIST 沖縄県恩納村(シンポジウム)

20. 銘苅美奈子・金城房枝・山川宗貞・仲宗根正・小浜敬子・安仁屋文香・崎間敦・白井こころ. 「統合した健診データによる宮古島市の健康実態分析」. 第46回沖縄県公衆衛生学会 2014.10.28 自治会館、那覇

21. Shirai K. “Social capital and health promoting behavior among older Japanese population in the community”. EWC/EWCA Okinawa International Conference, Sep.17-19, 2014, Pacific Hotel Okinawa, Okinawa (Oral Presentation)

22. Yoji I, Shirai K, Hidemi T, Minoru T "Social Capital and Well-being in Okinawa and Japan from the Perspectives of the Life Course, Session 1" EWC/EWCA International Conference Sep.17-19, 2014 パシフィックホテル沖縄、沖縄県那覇市(シンポジウム)

23. Shirai K. “Social capital and participation in health screening in the community in Japan: the JAGES Study project”. 6th International Symposium for Social Capital. University of Auckland, New Zealand, June 3, 2014. (Oral Presentation)

24. 崎間 敦・等々力 英美・白井こころ・高倉 実・金城 昇・小浜 敬子・安仁屋 文香・武村 克哉・奥村 耕一郎・大屋 祐輔「沖縄の健康長寿復活に向けた健康行動実践モデル実証事業：ゆい健康プロジェクト-研究・調査デザイン」第45回沖縄県公衆衛生学会 2013.11.1、市町村自治会館、那覇

25. 小浜敬子・安仁屋文香・高倉実・崎間敦・白井こころ・金城昇・等々力英美・武村克哉・奥村耕一郎・大屋祐輔「沖縄県民における肥満・生活習慣病の経年推移—平成20年および平成22年の特定健診結果から—」第45回沖縄県公衆衛生学会 2013.11.1、市町村自治会館、那覇

26. 安仁屋文香・小浜敬子・崎間敦・高倉実・白井こころ・金城昇・等々力英美・武村克哉・奥村耕一郎・大屋祐輔 「特定健診からみた沖縄県の健康課題」第45回沖縄県公衆衛生学会 2013.11.1、市町村自治会館、那覇

27. Shirai K. “Altruistic behavior and dementia onset in Japan: the JAGES Study project”. 6th International Symposium for Social Capital.

University of Auckland, New Zealand, June 4, 2014. (Oral Presentation)

28. Shirai K, Fujiwara T "Social Capital and mental health, a case of Great East Japan Earthquake: Exploratory analysis on disaster experience and its association with mental health". 5th International Society for Social Capital Research (ISSC), Finnish institute of occupational health, Turk, Finland, June 3, 2013. (Oral Presentation)

29. 白井 ころこ・磯 博康・Ichiro Kawachi・等々力英美・高江洲順達・石川清和・大屋祐輔・鈴木佳代・中川雅貴・近藤克則 「高齢者の健診受診行動の関連要因」第 23 回 日本疫学会総会 2013.1.24-26、大阪大学、大阪

30. Shirai K, Iso H, Fujino Y, Noda H, Honjo K, Tamakoshi A "Unemployment conditions and its association with increased all-cause and cardiovascular mortality among community dwelling population in Japan: JACC Study" 日本疫学会総会 2012.1.28、学術総合センター・一橋記念講堂、東京

31. 白井 ころこ・等々力英美・高江洲順達・石川清和・大屋祐輔・近藤克則 「高齢者の健診受診行動に関連する要因：沖縄における地域資源ソーシャル・キャピタルの視点からの検討 JAGES OKINAWA Study」第 44 回 沖縄公衆衛生学会 2012.11.9、沖縄県市町村自治会館、那覇

32. 金森悟・甲斐裕子・相田潤・白井 ころこ・平井寛・近藤克則 「参加している地域組織の種類と要介護認定：AGES コホート研究」第 71 回 日本公衆衛生学会 2012.10.24-26、山口市市民会館他、山口

33. 丸山皆子・木山昌彦・佐藤眞一・山岸良匡・谷川武・小林美智子・嶽崎俊郎・岸本拓治・白井 ころこ・緒方剛・磯博康 「離島・農村地域における生活習慣病及び特定健診・特定保健指導の実態把握」第 71 回 日本公衆衛生学会 2012.10.24-26、山口市市民会館他、山口

34. Shirai K, Kondo K, Todoriki H et al, Bridging and bonding social capital in Okinawa and its association with self-rated health for mortality, International Society for Social Capital and Health (ISSC), June 2012, University of the Ryukyus, Okinawa, Japan

35. 大塚 理加・近藤 克則・中出 美代・鈴木 佳代・村田 千代栄・松本 大輔・白井 ころこ：口演発表「地域高齢者の健康行動と所得の関連について—JAGES2010 8 万人のデータによる検証—」日本老年社会学会第 54 回大会 2012.6.10、佐久大学、長野

〔図書〕(計 7 件)

1 . 白井 ころこ (2014) 「沖縄におけるソーシャル・キャピタルと健康」(第 9 章) 藤田陽子・渡久地健・かりまたしげひさ編 『島嶼地域の新たな展望』九州大学出版会、九州 pp.1-382 (共著)

2 . 白井 ころこ (2014) 「笑顔の食卓」白井操編著、燃焼社、東京 pp.1-167 (分担執筆)

3 . Kondo N, Shirai K. (2013) "Microfinance and social capital" (Chap.10). Kawachi I, Takao S, S.V. Subramanian. 『Social Capital and Health from global perspectives』, Springer, New York pp.1-343 (共著)

4 . 白井 ころこ (2013) 「沖縄共同体社会における高齢者とソーシャル・キャピタル」(第 7 章) 等々力英美・イチローカワチ編著 『ソーシャル・キャピタルと地域の力—沖縄から考える健康と長寿』日本評論社、東京 pp.1-239 (共著)

5 . 近藤尚己・白井 ころこ著 (2013) 「マイクロ・ファイナンスと健康」(10 章) in Kawachi I, Takao S, S.V. Subramanian (eds), 高尾総司・近藤克則・白井 ころこ・近藤尚己監訳 『ソーシャル・キャピタルと健康政策：地域における活用』日本評論社、東京 pp.1-455 (共著)

6 . 白井 ころこ・磯博康 (2013) 「認知症」(11 章) 近藤克則編著 『健康の社会的決定要因：疾患・状態別「健康格差」レビュー』日本公衆衛生協会、東京、pp.1-181 (分担執筆)

7 . 白井 ころこ (2012) 「沖縄県民の社会参加活動と地域帰属意識 -沖縄県におけるソーシャル・キャピタルと Social Determinants of health への考察-」(第 7 章) 安藤由美・鈴木規之編著 『沖縄の社会構造と意識：沖縄総合社会調査 2006 による分析』九州大学出版会、九州 pp.1-323 (分担執筆)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

白井 ころこ (SHIRAI, Kokoro)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：80530211

(2) 研究分担者 (なし)

研究者番号：該当なし

(3) 連携研究者 (なし)

研究者番号：該当なし